

メディア情報工学科だより



2009年3月16日 第3巻第4号（通巻第10号） 沖縄工業高等専門学校メディア情報工学科発行

学科近況

今回メディア情報工学科5年生40名全員が無事卒業式を迎えることになりました。就職27名、進学等13名がそれぞれの進路に巣立ちます。沖縄高専最初の卒業生に祝福のイーゼルをお送り願います。また、巷間噂の内定取り消しは、当学科5年生にはありませんでした。3・4年生の研修旅行も、事故なく無事終了したことをご報告いたします。

懸案事項となっていた、専攻科設置についても、大学評価・学位授与機構から、本学専攻科の認定が得られたことをご報告いたします。学科だよりを読まれるころ、こころ新たに新学年の準備に取りかかっていると思います。筆者も学科長の任を終えます。1年間のご協力に感謝いたします。

(平成20年度学科長：姉崎 隆)



各学年の話題（5年生）

学級状況について

5年生の皆さん御卒業おめでとうございます。この度、本校が最初の卒業生を輩出することができたのは学生のみなさんの努力に加え、本校の教育を御理解頂き、御支援頂いた保護者の存在が不可欠であったと思います。保護者の皆さんには5年担任として厚く御礼申し上げます。

私事になりますが、5年前、本校に赴任した直後に1期生の学科担任を拝命し、第1回入学式の場で1期生全員の名前を緊張しながら読み上げたことを昨日のことの様に思い出します。この度、同じく第1回卒業式の場で5年担任として本校の最初の卒業生の名前を読み上げることとなります。入学式の事を思い出すとあっという間の5年間であったという感慨とともに、最初の入学式と卒業式で学生の名前を読み上げることができ、大変光栄に思います。

この5年を思い返してみると沖縄高専がここまでこれたのは1期生のおかげだとつくづく思います。本校最初の体育祭と高専祭、学生会と寮生会の設立、部活の立ち上げ、本校の学生同士が切磋琢磨しながら互いに成長を図る校風。どれを

とつても1期生の力が成し遂げたものと信じています。特にメディア5年生は一昨年、昨年の高専祭での映像作品で沖縄高専に伝説を残しました。また、何よりも私を始め本学科には企業出身の教員が多く、沖縄高専で初めて授業をする新米先生を教員になれるよう「教育」してくれたのも1期生の皆さんでした。

5年生の皆さんは卒業後、専攻科に進学してこれまで学んだことをさらに深く極めようとする人、大学に進学して新しい環境で本校では得られない学問、知識を求め人、企業に就職してこれまで学んだこと活かし即戦力の人材として社会に貢献する人、自分の夢を求め海外にチャレンジする人がいます。これら高専での5年間に皆さんが得ることのできた仲間は一生の宝です。これからの人生の節目節目で必ずや頼りになる存在になるでしょう。また、それだけの信頼感をお互いが抱いているものと信じています。

5年生の皆さんは沖縄高専1期生としての誇りと学校を作り上げてきたという自負をもって、卒業後の新たな進路先でこれまで以上に活躍してほしいと思いますし、それぞれの進路先で中心となる存在になれるという自信を持ってほしいと思います。

最後にもう一度、5年生のみなさん御卒業おめでとうございます。

（メディア5年担任：正木 忠勝）



各学年の話題（4年生）

研修旅行について

4年生は3月2日～5日に研修旅行で東京へ行きました。研修先としては日本ユニシス株式会社、JAL機体整備工場、また各グループで決めた自主研修がありました。自主研修は、学生が自分たちで旅行計画を立て行うものです。進学予定の大学を訪問したり、就職したい企業を見学したり、就職に関連する情報収集、博物館見学など種々あり、有意義な自主研修になったと思います。これを予備体験とし、来年度の本番の就職や進学活動に活かして欲しいと思います。

来年度は5年生になり、授業や卒業研究、そして就職・進学活動などが待っています。大変忙しい1年間になりますが、是非頑張ってくださいと思います。

（メディア4年担任：タンスリヤボン スリヨン）



各学年の話題（3年生）

研修旅行について

3年生は4年生よりも1日早い出発でした（次年度からは3年生のみの実施となる予定です）。学科全体での研修先などもメディア4年とほぼ同じでしたが、1日目はホテルに直行して旅の疲れを取ってもらうことにし、2日目を学科全体での研修日としました。この研修日では、午前中に日本ユニシス株式会社にて企業見学を行い、午後からは日本科学未来館にて、情報技術・生命/医学・宇宙/深海・ロボットなどの最先端科学を見学しました。

また、3日目は自主研修日とし、各グループが企業や大学、博物館や美術館などを巡りました。学生はそれぞれ自分の進路を考え、インターネットでは得られない情報を様々な場で収集したり、色々な人と会って話しをしたり、また、放送業界に興味がある学生はスタジオを見学したりと、1日を一杯使って、有意義に過ごしていました。



日本科学未来館で見学できる最先端科学

最後の4日目は4学科全体でJALの整備工場見学を行いました。普段見ることのできない、飛行機の整備風景や、飛行機から外されたパーツの数々、そして触れられるほどの距離から眺める飛行機に学生たちは圧倒されていました。



JAL機体整備工場で見学する学生たち

沖縄県から一度も県外へ出たことがない学生にとっては、研修旅行が最初の大都市での経験となるため、この機会にJRや地下鉄、あるいはバスなどの交通機関を利用して、様々な場所へ移動すると

いうことをしているかどうか、後々、特に県外でのインターンシップや就職活動などで差を生みます。例えば、研修旅行に参加した学生は、試験や面接を受けるため、希望する大学や企業へ所定の時間までに行かなければならない、といった場面でも旅行の経験を活かして、大都市でも焦らずスムーズに行動できます。研修旅行では、自らルートを設定し、交通機関を利用して移動するという経験も含めて「研修」と考えています。



東京都内の様々な研修先を巡る学生たち

インターンシップについて

現在春休みを楽しく過ごしている3年生もあと少しで4年生です。最初の大きな行事としてはインターンシップがあります。これは4年生の夏休みに実施されます。それに先立ち、5月13日に企業によるインターンシップ説明会が開催される予定です。（メディア3年担任：佐藤 尚）



その他の学科内の話題

コンテストについて

2008年12月20日にメディア情報工学科2年生31名が情報オリンピックの国内予選に挑戦しました。情報オリンピックはプログラミングによる情報処理能力を競う国際的なコンテストです。国内予選はインターネットで実施され、全国から406名の中学生、高校生、高専生がチャレンジしました。国内予選で優秀な成績を修めたものは東京で行われる本選に招待され、本選で優秀な成績をとると、強化合宿を経て国際大会へ日本代表として派遣されます。本校からは2年生の伊佐亮と久米剛弘の2名が国内予選を通過し、2月7、8日に東京のオリンピック青少年センターで実施された本選に招待されました。本選の結果、残念ながら日本代表に選出される成績を残せませんでした。全国から集まった優秀な同年代の学生に触れ、とても良い刺激になったと思います。本選に出場した両名の今後の活躍に期待します。

（コンテスト担当：正木忠勝）



編集後記

「メディア情報工学科だより」は、3学年以上の学生をお持ちのご家庭を対象に、試験の成績通知に合わせて発行している学科通信です。1期生が3学年となった平成18年度に刊行し、これまでに9号を発行しました。平成21年度から、学科だより編集の業務は他のスタッフに引き継がれる予定ですが、次号発行（平成21年6月頃）までは引き続き窓口業務を佐藤が担当いたしますので、ご意見ご要望がありましたら、是非お知らせ下さい。また学校に対してお持ちの疑問・要望、また他の保護者の方々にも知って欲しいことなどを投書して下さい。大歓迎ですので、是非お気軽にお便りをお寄せ下さい。

【編集担当者連絡先】

〒905-9021 沖縄県名護市辺野古905番地
 独立行政法人 国立高等専門学校機構
 沖縄工業高等専門学校 メディア情報工学科 佐藤 尚
 TEL: 0980-55-4003 (代) FAX: 0980-55-4012 (代)